

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大村市立中央小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	3	3	1	17	28
児童数	79	92	71	90	92	87	6	517	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが生きる力を持つ子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数

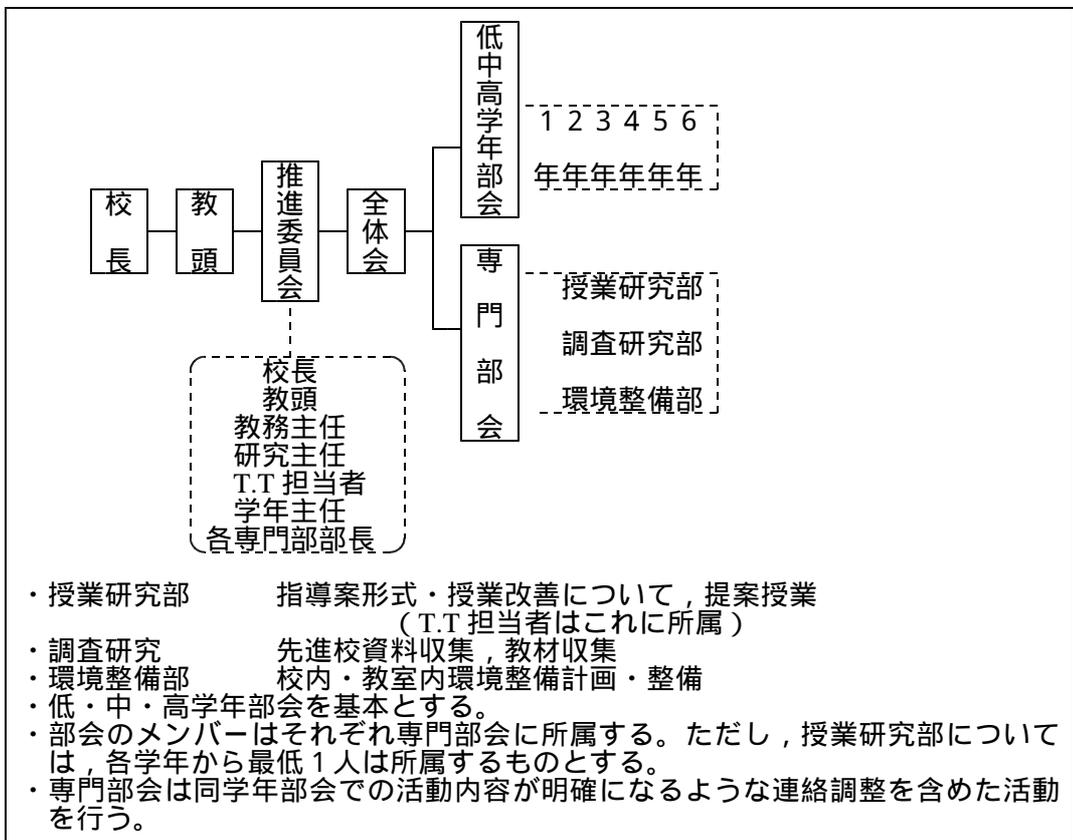
昨年度まで算数の研究を行ってきた。しかし、T.T, 習熟度別学習, コース別学習など, 高学年でしか実施していなかった。全児童の基礎・基本の確かな定着をはかるために, 全学年で少人数, 習熟度別, コース別学習を行うこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 一人ひとりが生きる力を持つ子どもの育成 楽しく意欲的に課題解決学習に取り組む算数科指導法の工夫</p> <p>研究の見通し 算数科における各学習過程の中で, 効果的な支援のあり方を工夫したり, 算数的活動を取り入れた学習をしたりすることにより, 児童は意欲的に課題解決学習に取り組み, 本校が目指す生きる力の育成につながるのではないだろうか</p> <p>研究の内容・方法 内容 本校の考える生きる力を育成するために 低・中・高学年の各部会で研究の具体仮説を設定し, 授業を仕組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもつことのできる力 ・物事に意欲的に取り組む力 ・基礎・基本の学力 ・情報収集力・分析力 ・自己表現ができる力(自分の思いや考えや願いを実現できる力) 授業研究においては, 具体仮説を中心に話し合いながら, その中で, 算数的活動や支援のあり方, 授業の形態などを研究していく。</p> <p>方法 (1) 各学年1回以上の研究授業を行い, それに伴う考察をまとめる。 (2) 指導案検討については, 授業者は検討日の3日前までに指導案を作成・配布し, 授業者以外はあらかじめ代案を持って望むことにより, 研究を深める。 (3) 仮説の検証を中心に授業研究を行い, 研究を深める。 (4) 紀要の作成。HPで進行状況の報告。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 一人ひとりが生きる力を持つ子どもの育成 楽しく意欲的に課題解決学習に取り組む算数科指導法の工夫</p> <p>研究の見通し 算数科における各学習過程の中で、効果的な支援のあり方を工夫したり、算数的活動を取り入れた学習をしたりすることにより、児童は意欲的に課題解決学習に取り組み、本校が目指す生きる力の育成につながるのではないだろうか</p> <p>研究の内容・方法 内容 本校の考える生きる力を育成するために 低・中・高学年の各部会で研究の具体仮説を設定し、授業を仕組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもつことのできる力 ・物事に意欲的に取り組む力 ・基礎・基本の学力 ・情報収集力・分析力 ・自己表現ができる力(自分の思いや考えや願いを実現できる力) </div> <p>授業研究においては、具体仮説を中心に話し合いながら、その中で、算数的活動や支援のあり方、授業の形態などを研究していく。</p> <p>方法 (1) 各学年1回以上の研究授業を行い、それに伴う考察をまとめる。 (2) 指導案検討については、授業者は検討日の3日前までに指導案を作成・配布し、授業者以外はあらかじめ代案を持って望むことにより、研究を深める。 (3) 仮説の検証を中心に授業研究を行い、研究を深める。 (4) 紀要の作成。HPで進行状況の報告。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学力テストより
・現在の6年生と昨年度の6年生の領域別の通過率を比較してみると、「数と計算」においては69.5→73.6へ、「図形」においては55.7→66.5へと大きな伸びを示した。

児童の様子より
・少人数指導を行う以前は、授業に集中できずにいた児童も、少人数指導を行うことにより、課題をしっかりとつかみ、集中して取り組むことができるようになった。

・あまり発表できなかった児童が、少人数や習熟度別の学級において発表する姿が見られるようになった。

以上のようなことは、T.T, 少人数, 習熟度, コース別などといった授業形態を取ることであり、一人ひとりにきめ細やかな対応ができているためだと考える。また、児童に学習の進め方が身に付いてきたことにより、「自力解決をしている」という意識が高まったためだと考える。本校の「生きる力」の育成に関しては、大きな成果を上げているのではないだろうか。

2. 今後の課題

・評価基準を使った評価を行うが、それをどのように担任に伝え、一般性のある物にするか。

・単元による授業形態の選択。

・習熟度別学習を行う場合、自分の力をうまく見極めることのできない児童がいるが、意欲を持ってそのコースへ入ってきているため、どのような言葉かけをしながら自分の力に応じたコースを選択させるか。また、それに伴う自己選択能力の育成。

・現在算数の研究を行っているが、それを他教科へどのように波及させるか。

・担任が1人で授業を進めるときの学級内での習熟度別学習。

学力等把握のための学校としての取組

学力把握のために学力テストの分析を行った。また、毎時間の評価を評価基準を使って行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

H.15.11.18(火)
大村市立中央小学校
大村市内加配校対象
本校の5年生の要請訪問授業・授業研究と同時に市内の加配校に対し、本校の実践紹介。

H.16.2.6(金)(予定)
大村市立中央小学校
大村市内加配校対象
本校の1年生の要請訪問授業・授業研究と同時に市内の加配校に対し、本校の実践紹介。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無